

空 楽々

「くらくら」

2017
秋



京都造形芸術大学通信教育部「真夏の芸術祭」

「第8回京都造形芸術大学通信教育課程 卒業生・修了生 全国公募展」

アートフェア「アート・マルシェ」



今年度は通信教育部開設 20 周年ということでイベント目白押しですが、恒例の夏のイベントが瓜生山キャンパスで開催され、そのひとつとして「第8回京都造形芸術大学通信教育課程 卒業生・修了生 全国公募展」が人間館 1 階のギャラリー・オーブにおいて 8 月 17 日から 8 月 26 日に渡って開催されました。例年テーマが設定され、応募作品に対して一次審査が行われるのですが、今回はテーマは自由となり、一次審査が行われずに全ての作品が展示されることになりました。これに伴い、幅広い作品が全国から集まりました。

空間演出デザインコースからは、鈴木陽規さん（2009 年度卒業生）の作品「face to face 通信教育部開設 20 周年を記念して」、花房澄夫さん（2014 年度卒業生）の「大空間へ」、水野順子さん（2015 年度卒業生）の「to the 」、そして水野さんを中心とした卒業生チームの作品「PARALLEL 旅する KUDE」が出展されました。おしくも入賞は逃しましたが、空デらしい多彩な作品が展示され、入場者の目を惹いていました。

全国公募展は卒業生・修了生のみが参加できる夏のイベントですが、在校生も参加できるイベントとして昨年度からアートフェア「アート・マルシェ」が始まりました。この「アート・マルシェ」は作品やクラフト、自費出版物などを展示販売するフリーマーケットで、今回の「アート・マルシェ」は開催日程が 8 月 25 日と 8 月 26 日の二日間となりました

が、全国公募展が開催されているギャラリー・オーブ前のエントランス通路を会場としていたため、全国公募展を観に来られた方々が足を止めていました。また、平日の金曜日となる初日は通学生が行き来し、興味深く作品を見ていました。初回となる昨年度は参加 7 組のうち 3 組が本コースから出店していましたが、今回は参加 11 組のうち 3 組が本コースの在校生・卒業生有志チームあるいは個人での出店となりました。加えて他コースの卒業生とのチームで出店された方もおり、今年度も本コースの活躍ぶりを見ることができました。

全国公募展の最終日 8 月 26 日にはギャラリー・オーブ前の吹き抜けスペースにおいて瓜生山懇親会が開催されました。会場には一期生の方も会場に来られており、盛況の懇親会でした。また、通信教育部の恒例イベントである「秋の収穫祭」を 20 周年記念全国キャラバンスペシャルとして 10 月から 12 月にかけて全国で開催することと、それらの開催場所をリレーしていく「20 周年記念の旗」が懇親会で公開され、参加された在校生・卒業生が寄せ書きを行いました。「秋の収穫祭」に参加される予定の方は「20 周年記念の旗」を確認いただき、是非とも寄せ書きをお願いします。

※写真協力：鈴木陽規さん（2009 年度卒業生）、岡本正人先生



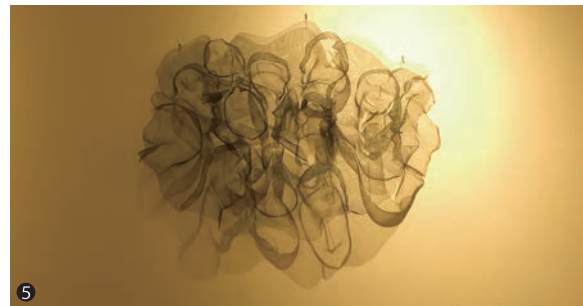
2017 年度
通信教育部
夏イベント他



左: アート・マルシェでのコマ
中: 享保一美さん(2011 年度卒業生) は他コースの方とのユニットで参加。二日目は紙漉きのワークショップを開催されました
右: 上田先生は一期生の方とツーショット



上: アート・マルシェ「ミカンバコ at KUADKUDE」
中: アート・マルシェ「KUDE 卒部マルシェ」
右: アート・マルシェ「アナログ仕事の魅力」



1～2: 「PARALLEL 旅するKUDE」(卒業生有志チーム)
3～4: 「大空間へ」(花房澄夫さん)
5: 「face to face 通信教育部開設20周年を記念して」(鈴木陽規さん)
6: 「to the__」(水野順子さん)

空デと言えば・・・食うで

あつと言う間に無くなってしまった懇親会の食事では物足りないということで、空デ御用達の中華料理店で二次会。こちらでも皆で楽しい時間を過ごしました。上田先生が地元の「岸和田だんじり」を熱く語ったそうです。



京都造形芸術大学 学園祭「大瓜生山祭2017」 「学校法人 瓜生山学園 ホームカミングデー2017」

昨年10月に瓜生山学園の開学40周年を記念して初めての「ホームカミングデー」が瓜生山キャンパスで開催されました。昨年度は、式典や懇親会、春秋座での歌舞伎公演など様々なイベントが開催され、多数の卒業生が参加し、友人や先生方との交流を深めました。また、空間演出デザインコースの片岡智さん(2015年度卒業生)のお店「シンパカフェ」も「食とアート」の企画に参加されました。

今年は「学校法人 瓜生山学園 ホームカミングデー2017」として、京都造形芸術大学の学園祭「大瓜生山祭2017」の開催期間(9月16日～9月17日)の二日目に開催されることとなっていました。当

日は運悪く台風が接近して荒天が予想されたため、参加される皆さんの安全を考慮して無念の開催中止となりました。

卒業生は京都のイベントに参加できませんでしたが、その代わり(?)に在校生有志が大瓜生山祭に食のブースで参加しました。未来館前の屋外ブースとなり天候が不安でしたが、雨にも負けずに焼いたチヂミは好評で、上田先生も絶品と評価していました。噂を聞きつけた田村先生も足を運んできたそうです。大瓜生山祭もホームカミングデーと同様に二日目が中止となりましたが、空デメンバーのチームワークと頑張りを見せて貰いました。



左上: 大階段の上では京造ねぶたの優秀作品が皆さんをお出迎え
左下: ギャラリー・オーブ前のエントランス通路には学園の変遷を紹介するパネルが設置されました
右上: 上田先生はたびたび訪れて二種類のチヂミを食べ比べ



空間演出デザインコース特別講義2017



松宮宏先生のプロフィール

作家。デザインビジネスコンサルタント。ブランディング、コミュニケーションデザイン、空間デザインのディレクションやストーリー開発のコンサルタントを行う。アメリカの企業で社長経験あり。著作『秘剣ていわらい』『燐り亦蔵』『さくらんぼ同盟』（講談社）、『はるよこい』（PHP）、『まぼろしのパン屋』『さすらいのマイナバー』『まぼろしのお好み焼きソース』（徳間書店）

- 京都（瓜生山キャンパス人間館4階NA413教室）
- 「流行」を科学する。デザイナーの発想の在り処
- 日時：2017年8月12日（土）18:00～19:30
- 講師：松宮 宏 先生

京都では、デザインビジネスのコンサルタントであり、小説家でもある松宮宏先生をお招きして、ファッション、空間、プロダクト、街という視点で、今何が流行しているのか、その流行をデザイナーがどのように捉えて発想しているかなどを講義していただきました。従来のトレンドの構造が無くなったのではないかと、との問いかけから始まった講義は、感受性・感性の訓練とともにブランドやブランディング、デザインの仕事と発想をしっかりと見る場にして欲しいとの先生の想いから、盛りだくさんのスライド・映像が紹介されました。トップデザイナーの動き（仕事・発想）や今の世の中の動きを探るのもデザイナーの仕事とのことで、ネット上に即日情報が公開され、自分で足を運ばなくとも情報を買えるような時代になったからこそ、必要な情報を得るためにどこにアクセスすれば良いか、そしてその変化を読み解くためには定点観測が必要と述べられていました。最後にエンターテインメント小説の三原則「幸せがあること」「キャラが立っていること」「世の中を知っていること」がデザイナーの活動と共通していると述べられました。自分のやりたいことをやるだけではダメで、クライアントに迎合するだけでもダメ。双方のキャラを大切にしていけるのもデザイナーの活動であるとのことでした。

- 東京（外苑キャンパス205号室）
- 「ブランディングデザインのおはなし」
- 日時：2017年8月19日（土）18:00～19:30
- 講師：成田 可奈子 先生

東京では、成田可奈子先生をお招きして、ブランディングとは何かを、成田先生が携わった事例を交えながら講義していただきました。まずはブランディングデザインについての説明が行われた後、ドラッグストアとカフェの二社でどのようにブランディングデザインが行われていったのかを紹介していただきました。ブランディングにおいてはフォーカス RPCD（R: リサーチ、P: プラン、C: コンセプト、D: デザイン）という手法を使い、その会社の持つ「ブランドの強み」「ブランドらしさ」を探して、プランを策定し、ブランドコンセプト・ステートメントが固まってからデザインをするという流れをとるそうです。そしてその手法を使えばブランディングデザインが出来るという訳では無く、ブランドとなるための「トップの熱い思い」「良いモノ」「コミュニケーションチーム」が伴っていないとダメとのことでした。二社の事例でも「既にドラッグストアという店舗があるが、このままで将来は大丈夫なのか」あるいは「カフェでどれもやっていないことをやる」など、トップの熱が原動力となり、店舗ブランド・商品ブランドの創成へと繋がったとのことでした。



成田可奈子先生のプロフィール

神奈川生まれ、富山育ち。京都工芸繊維大学卒業後、デザイン会社を経て、2006年エイトブランディングデザインに入社。企業のブランド開発、商品開発、店舗開発など幅広いジャンルでのデザイン活動を行っている。
<http://www.8brandingdesign.com/>

空デエクスカーション2017

毎年恒例となりました秋の空デエクスカーションを下記の日程で開催します。ご都合が合う方は、課題制作の息抜きや気分転換を兼ねて、奮ってご参加ください。

事前申し込みが必要となりますので、詳細はコースサイトを確認してください。

【関西】

- 内容：心斎橋レトロビル建築見学の旅
- 日時：10月14日（土）14:00～17:00
- 集合場所：地下鉄御堂筋線 心斎橋駅 北改札口 14時集合
※各自あらかじめ昼食を済ませておいてください。
※午前中の天満橋筋商店街ぶらり旅から参加の方は、地下鉄／阪急 天満橋筋六丁目駅 北改札口 10時30分集合
- 行程：
10:30（自由参加）日本一長いアーケード商店街「天満橋筋商店街」をぶらりと南下
14:00 各自昼食後、地下鉄御堂筋線 心斎橋駅 北改札口 付近に集合
14:30 船場ビルディング他レトロビル見学
17:00 一旦解散
その後、懇親会の予定（自由参加）
- 持参物：学生証、健康保険証、デジタルカメラ、見学料（500円）など
- 参加申込締切日：10月9日（月・祝）中

【関東】

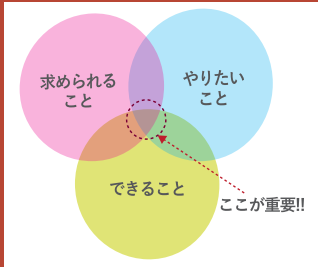
- 内容：ブリヂストン美術館工事現場見学と日本橋～大手町ぶらぶら歩き
- 日時：10月28日（土）14:00～17:00
- 集合場所：JR東京駅グランルーフ2F ペDESTリアンデッキ 中央付近に14時集合
※各自あらかじめ昼食を済ませておいてください。
- 行程：
14:00 各自昼食後、JR東京駅グランルーフ2F ペDESTリアンデッキ中央付近に集合
14:30 ブリヂストン美術館工事現場見学
15:30 日本橋界隈を抜け、大手町仲通りまでぶらぶら歩き
17:00 大手町仲通りにて一旦解散
その後、懇親会の予定（自由参加）
- 持参物：学生証、健康保険証、デジタルカメラなど（ブリヂストン美術館工事現場内は撮影禁止です）
- 参加申込締切日：10月18日（水）中
- 参考 URL：ブリヂストン美術館 新築工事ニュースリリース
http://www.bridgestone-museum.gr.jp/news/press/20160617_01.html

■注意事項（関西・関東共通）

- ・ある程度の距離を歩きますので、歩きやすい靴と温度調節しやすい服装で参加してください。
- ・当日の午前7時の時点で【関西】大阪府北部【関東】東京23区に警報発令など荒天の場合は開催中止とします。判断がつかない時などは、申し込み後に返信するメールに記載の緊急連絡先に電話をしてご確認ください。

卒業制作へ向けて

卒業制作の本着手要件をクリアした2017年度の卒業制作着手生は後期に突入して徐々に追い込みをかけてきました。今回は来年度の卒業制作着手予定の方々に向けて、卒業制作のおさらいをしてみましょう



卒業制作のおさらい

一年をかけて進めていく卒業制作のカリキュラムは、「テーマ審査」「中間審査」「最終審査」の3回の審査を含む前期2回、後期4回の計6回のスクーリングと4年次テキスト課題「空間演出デザイン演習Ⅳ」(第1課題:「卒業制作研究ノート」と第2課題「ファイナルプレゼンテーション」)から構成されています。

スクーリングの中で行われる各審査終了後には審査結果(合否判定)が発表されますが、一つひとつのスクーリングが終了するたびに評価判定が出るのではなく、一括の評価判定が行われます。また、最終審査で提示する作品だけで「卒業制作」科目の合否が判定される訳ではなく、卒業制作期間を通しての取り組み方やアウトプットなどの経過を踏まえて、総合的に判断したうえでの合否判定となります。卒業判定にかかる方は冬期(1月～3月)の履修はできませんので注意してください。(「空間演出デザイン演習Ⅳ」第2課題は除く)専門科目以外の科目の単位が不足している方は、秋期(10月～12月)までに単位修得が必要です。また、「空間演出デザイン演習Ⅳ」は、提出のタイミングがスクーリング日程と連動しているため、卒業制作期間中のスケジュール管理には気をつけましょう。

なお、卒業制作展への展示準備と撤収作業も原則全員参加となっていますので、初回スクーリングである

「卒業制作1」の事前課題着手から、卒業制作展の後片付けが終わり、解散するまでが卒業制作期間と言うことになります。

卒業制作は通常のスクーリングやテキスト課題とは違い、自分で課題や問題点を見つけ、それを解決するための自分の考えを眼に見える形としてアウトプットして提示しなければなりません。今までのように与えられた課題をクリアするのとは違います。テーマやコンセプトを探り、形態を思考し、その形態が適切なものかを検証して、更にブラッシュアップしていくというプロセスを繰り返していきます。あるいは、プレゼンテーションを行うために、見えないコトに見える化する作業も必要になるかもしれません。

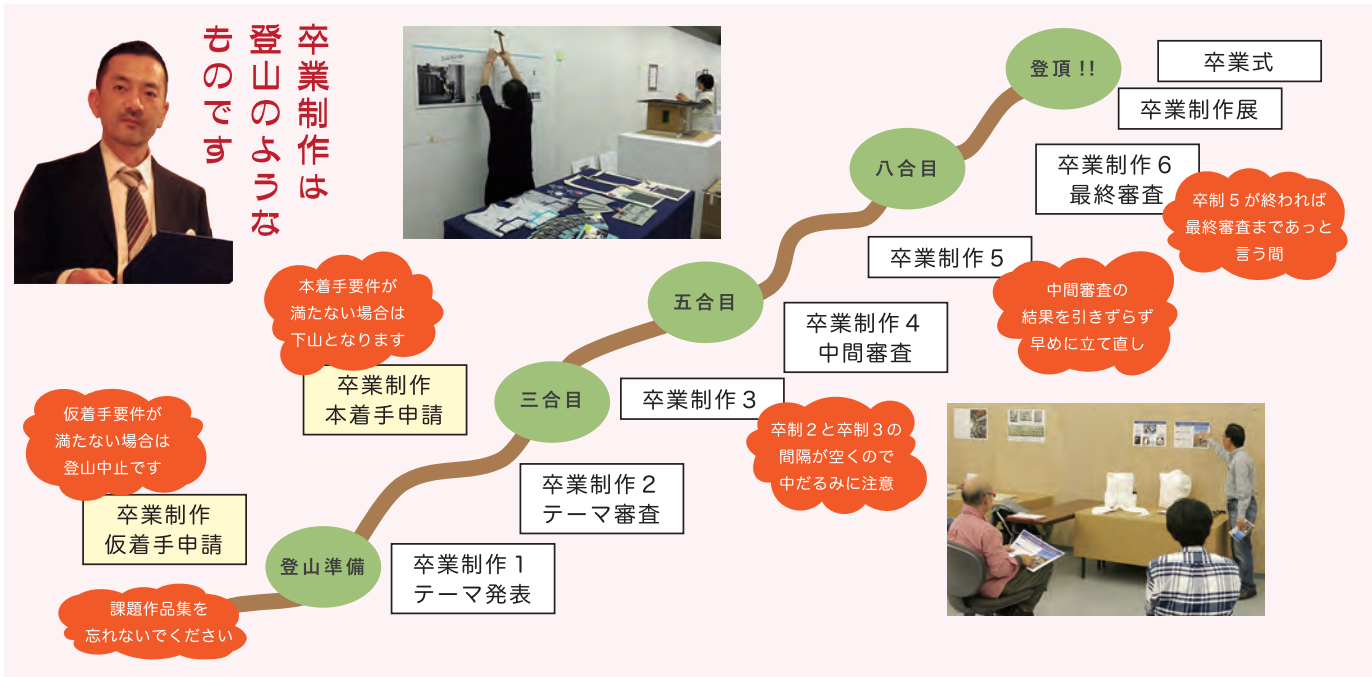
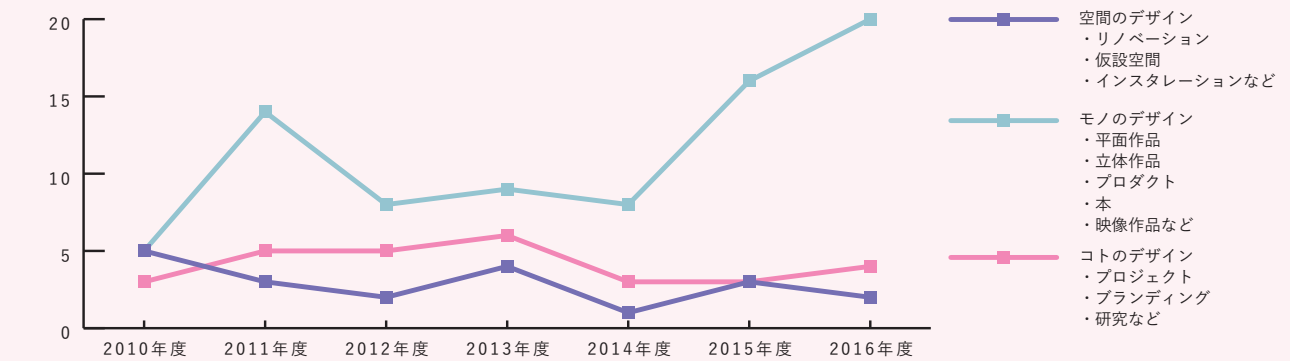
従って、「卒業制作2」でテーマやコンセプトが一旦確定したら、「卒業制作3」以降は何度も試作を重ねて精度をあげていくのが望ましいです。「卒業制作2」から「卒業制作3」までは3ヶ月程期間が空きますので、有効に時間を活用しましょう。途中で、テーマやコンセプトがぶれたり、最適なアウトプットが何なのか見えなくなったりするかもしれませんが、卒業制作は、学生生活の集大成ですので、焦らずじっくりと、そして楽しんで、悔いの無い卒業制作期間を過ごして頂ければと思います。

データで見る卒業制作

卒業生の推移(男性♠・女性♡)



卒業制作作品の推移 ※分類は編集部独断による



卒業生INTERVIEW

2012年度卒業生の緒方希さんは、卒業制作で手がけた活動テーマを現在も継続されています。卒業制作時の想いなどを「空楽々」が非公式版だった2012年にインタビューした際の記事の一部を再掲したいと思います。

コロコロクラブを卒業制作のテーマにしようとしたのは？

私自身が小さい頃から絵画造形が好きであったこと、幼稚園教諭時代にこども達とアート活動することに、特に楽しさを感じたこと、母になり、現代のこども達をとりまく環境を目の当たりにして、『子どもとアート』の重要性を感じ、それをライフワークにしていきたいと思ったからです。

実際のところ、自分にできることはこれしか残っていなかったとも言えますが・・・

コロコロクラブを卒業制作で区切りとせずに、ずっと続いているモチベーションの理由、秘訣ってなんですか？

卒制中、テーマ設定『コロコロクラブ キッズアートスクール』を立ち上げた時点で、ライフワークにしていこう・・・と『腹をくくった』という感じでしょうか。(笑)

そして、私自身がこども達とふれ合う中で、気づかされることもありますし、とにかく楽しくてしょうがないです。夢中になって道路に落書きしていたころの自分に戻れる感覚です。

モチベーション持続の主な理由としたら、アートを通して『楽しみ』『考え』『発見』『柔軟』『失敗』『成功』『自信』それらの【宝の種】が、こども達の心に沢山ちりばめられていたら、やがてその芽が実り輝く日があるのではないかと・・・

こども達がいつか、各分野のスペシャリストになってくれることを夢みて、コツコツと【宝の種】を蒔きつづける・・・という、使命感です。おかげさですが、この思い込みの使命感があるからこそ、少々しんどいことも、未来のために、がんばれるという感じでしょうか。

それと、立ち上げ当初から、大学の先生方や仲間、こども達や保護者、さまざまな方々に支えられ育まれ、今日のコロコロクラブがあります。



ちょっとやそつとで辞めるわけにはいきませんよね。(笑)

大学時代の学習や経験は活かされていますか？

はい、おおいに。素材、光、音、造形にかかわることは、今の活動に影響大です。

例えば、『素材のプレゼンテーション』で大量の洗濯バサミを使ったのですが、今、教室で『洗濯バサミアート』として楽しんでいます。「沢山の素材を使って、容易に表現」ではなく、「素材ひとつで考え工夫し表現する!」というスタイルは大学で得たものだと思います。

自分自身の意識も、大学で学ぶことにより、随分変化しました。入学当初は、『自分の理想に近づきたい!』など、すごく感じていて、でも短い期間には思ったようになかなかできなくて、スクーリング終了後、どんよりした気分で帰っていたことが多かったのですが、3年目くらいに、『なんか違うぞ、楽しめばいいんじゃないの?』と、半ば諦めに近いものを感じはじめたころから、物事がうまく回るようになった気がします。

卒制中、『300mのプチプチで遊ぼう!』のワークショップを企画していた中「沢山の人も来て、素材もあるのに、作品が完成しなかったらどうしたらいいですか・・・」という不安を田村先生にぶつけたんです。そしたら「作れなくてもいいやん、面白い!発見!経験があればそれでええんちゃうか?」と何気ない一言が・・・目から鱗でした。

私はまだその時点でもいいもの作りたい!成果物が重要!だと思っていたんですね、物質的価値観に縛られていたんだな・・・と。

そこで楽しむこと、試してみること、気づくこと、失敗上等、結果じゃなくてプロセスが大事なんだと、改めて実感しました。コロコロクラブは絵画造形!教室なのに『作れなくてもいい!』と自信をもって言ってます。(笑)子どもたちがどんな困難にぶつかっても、工夫や創造で乗り越えていける『生きる力』を育みたいとも。

KUDEオープンゼミ



京都は主にBEATH CAFE付近で開催しています



オープンゼミには「学習のしおり」を忘れずに

オープンゼミでは、履修方法やテキスト科目、その他なんでも相談を受け付けています。気軽に相談に来てください。

■京都

日時：2017年10月14日（土）

※「空デエクカーション2017（関西）」内で開催します

日時：2017年11月18日（土）17：00～19：00

日時：2017年12月16日（土）17：00～19：00

日時：2018年1月6日（土）17：00～19：00

日時：2018年2月3日（土）17：00～19：00

会場：瓜生山キャンパス人間館1Fラウンジ

担当教員：上田篤、岡本正人、川合健太（12/16のみ）他

■東京

日時：2017年10月21日（土）17：00～19：00

日時：2017年11月25日（土）17：00～19：00

日時：2017年12月9日（土）12：00～14：00

日時：2018年1月6日（土）17：00～19：00

日時：2018年2月3日（土）17：00～19：00

会場：東京外苑キャンパス1階エントランスホール

担当教員：川合健太、上田篤（12/9のみ）他

※事前申し込みは不要です。参加希望者は時間内に直接会場へお越しください。また、日程・会場が変更となる場合がありますので、コースサイトで事前に確認してください。

通信教育部 開設20周年記念企画



昨年度の東京懇親会は芸術教養学科長の早川克美先生の特別講義や立食パーティーなどが開催されました

■秋の収穫祭（全国キャラバンスペシャル）

既に告知されていますが、今年で18回目となる通信教育部の恒例イベント「秋の収穫祭」が10月から12月にかけて全国で開催されます。今年度は通信教育部開設20周年の節目にあたることから「全国キャラバンスペシャル」と銘うって、全国7会場を通信教育部のおなじみの教員が行脚して、地域に根ざした公開講座を開催します。川合健太先生も仙台に行脚します！

【開催会場・日時】

・宮城県仙台市：2017年10月1日（日）

・島根県安来市：2017年10月5日（木）

・北海道札幌市：2017年10月21日（土）

・奈良県奈良市：2017年10月22日（日）

・福岡県太宰府市：2017年11月4日（土）

・香川県香川郡直島町：2017年11月23日（木・祝）

・愛知県瀬戸市：2017年12月2日（土）

※事前申し込み（定員制）となります。各会場とも開催日の10日前必着となります。先着順での受け付けとなりますので、定員を超えた場合は参加できない場合もあります。募集状況や追加情報については「airU キャンパス」のお知らせを確認してください。

■東京懇親会

毎年12月の外苑キャンパスでの恒例イベントとなっている「東京懇親会」ですが、今年は8月から始まる20周年記念行事の行脚を締めくくる企画となります。開催内容、申し込み方法などの詳細は、『雲母』もしくは「airU キャンパス」のお知らせを確認してください。

日時：2017年12月9日（土）

会場：東京外苑キャンパス

※事前申し込みとなります。

デザイン本で秋の夜長を

テキストだけを読むだけではデザインの幅はなかなか広がりません。参考文献がシラバス等で紹介されていますが、それ以外の様々な本を読んでみるのはいかがでしょうか。読書の秋でもありますので、編集部の特権でデザイン関係の本を選んでみました。

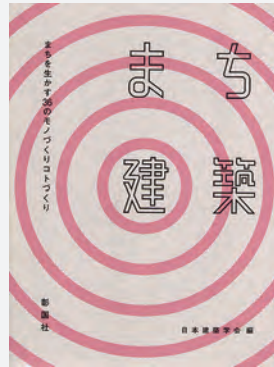


突破するデザイン あふれるビジョンから最高のヒットをつくる
（2017年／日経BP社）

著者：ロベルト・ベルガンティ、監修：安西 洋之、監訳：八重樫 文

アメリカ発の「デザイン思考」はデザイナーの考え方を問題解決に活かす手法ですが、この本ではヨーロッパ発の「意味のイノベーション」と言う「意味」を変えることで商品の価値を高める手法を事例を交えて解説しています。

スペキュラティヴ・デザイン 問題解決から、問題提起へ。
—未来を思索するためにデザインができること（2015年／BNN）
著者：アンソニー・ダン、フィオーナ・レイビー、監修：久保田 晃弘、他
この本も問題を解決するためのデザインではなく、問題を提起し、未来を思索（スペキュレート）するためのデザインを紹介した本です。

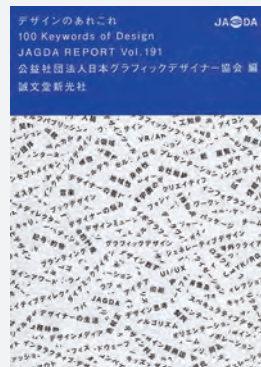


まち建築—まちを生かす36のモノづくりコトづくり
（2014年／彰国社）

編集：日本建築学会

まちを生かす建築のいとなみを「まち建築」と名付けて、それらの事例を「使いこなす」「終える」「構想する」「工事する」「見つめる」という5つのサイクルから紹介した本です。建築の多様性という視点ですが、建築を空間と置き換えているのと考えてみたりします。

デザインのあれこれ 100 Keywords of Design:
JAGDA REPORT（2017年／日本グラフィックデザイナー協会）
編集：公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会
グラフィックデザインに関する多数のキーワードをJAGDA（日本グラフィックデザイナー協会）の会員（一部、非会員）が解説する本で、用語集としても使える一冊です。



北欧の巨匠に学ぶデザイン アスプルンド／アールト／ヤコブセン
（2013年／彰国社）

著者：鈴木 敏彦、杉原 有紀

北欧モダンデザインの潮流を生み出した3巨匠が、スウェーデン、フィンランド、デンマークと、それぞれ国の自然環境に向かい合いながら、どのように建築、インテリア、プロダクトをデザインしてきたのか、その一端を紹介した本です。

東京の家
（2017年／青幻社）

著者：ジェレミ・ステラ

フランス人写真家が隈研吾、坂茂、妹島和世、西沢立衛、青木淳、長谷川豪などが設計した東京都内の個人住宅を3年余りかけて撮影した写真集です。図面や解説は無く、住宅と日常の環境との関係性を写真から読み解きます。



編集室から



東京の大層修相談会(9/23開催)には多数の在学生が外苑キャンパスへ来てくれました

- 今回の表紙は瓜生山キャンパスで行われた「瓜生山懇親会」での一コマ。（写真：鈴木陽規さん）上田先生らが掲げる通信教育部開設二十周年の旗が「秋の収穫祭」とともに全国を巡っていきます。
 - 雨でイベントが残念な状態になったのは、初回の久美浜遊学旅行が三日間雨続きだったことと、関東での第二回の秋のエクスカージョンが天候不順で中止になったこと。そして今年は第二回ホームカミングデーが台風接近で荒天が予想されるために中止になりました。来年度開催されるのであれば、秋晴れの空の下で卒業生・先生たちとお会いしたいものです。
 - この「空楽々」が自主制作版の「Kurara」として情報デザインコースの限定配付でスタートしたのが2009年の秋。当時の内容は今では恥ずかしい稚拙なものでしたが、継続は何とやらで、今年で9年目に突入しました。空間演出デザインコース公式版としては日が浅い3年目ですので、まだまだ精進しないといけないなあ、と思うこの頃です。（森）
- 【表紙の色 茜色（あかねいろ）】

「人と森をつなぐ」

私が住む和泉市は大阪のベッドタウンとして宅地開発が進み整然とした街並みと、南部には和泉山脈が伸び自然と融合する美しい街です。

空デに入學後、スクーリングで学んだワールドワークを自分の住む街でも実践し、各課題を着手していくことで、和泉のことを深く知ることができました。時間をかけて歩くことにより、和泉の美しい景観は山の存在なくしてはあり得ないと思うようになり、森に惹かれていきました。

そこで、和泉の豊かな森を守ることを目的とした卒業制作が始まりました。

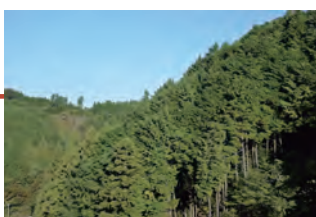
森のことを知るため森林ボランティア講座を受講し、多くの学びがありました。長年にわたってボランティア一人一人が手を加えることによって、森が美しく保たれていることを知り、森林整備の大切さを知りました。また、ボランティア活動を通して、山村に住む住民との交流を深め合う場になっているという話に関心を持ちました。

私のようにこの街に魅力を感じ、移り住む人達に森で起きていることを知っていただきたいと思いました。

同時に森林整備で出る間伐材の有効活用方法を探索する中で、間伐材を再利用して作られた「糸」の存在を知りました。私はその糸に地元の農産物や草木を染め、豊かな色に染め上がった美しい糸を使って、ものづくりを楽しみながら森に目を向けてもらう活動「いずみ豊かな森プロジェクト」を始めました。卒業から半年が経ちましたが、この活動を継続しております。活動に賛同していただいた無印良品様やレクサス様からワークショップの依頼をいただき、地元を始め大阪近郊にお住まいの方まで活動を知っていただく機会となりました。少しずつですが活動が浸透していることは嬉しいです。このプロジェクトを通して、和泉の地で人との繋がりを築いていることに喜びを感じます。そして、空デの絆も繋がっていることがとても嬉しいです。これからも多くの方に力を貸していただきながら、人と森をつなぐ空間演出を続けていきたいと思います。

二〇一六年度卒業生 齋藤 千秋

(文・写真)



もてなし時間